

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	蒲生町立蒲生北小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	19
児童数	80	70	78	61	62	61	1	413	

研究の概要

1. 研究主題

<p>児童一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導方法の改善をめざして 豊かに考え、かかわり、表現する子どもの育成 ～夢中になれる 見通しがもてる 自信がもてる 子どもを求めて～</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1年生～6年生 国語・算数・総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの実態に応じたきめ細かな指導方法を確立していく上において、発達段階にあった学びの確かさを明らかにしていく必要があるため。</li> <li>少人数学習について、当該教科に関する研究実績があるため。</li> <li>教科等の中で育まれた力を活用場、自らが考え、課題を解決する場として総合的な学習の時間を位置づけ、また総合的な学習の時間の中で体験したことが教科へと生きてはたらく、そのような活動の生み出しに取り組むため。</li> </ul>
---

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 夢中になれる 見通しがもてる 自信がもてる 子どもを求めて 研究の見通し(仮説) 「学力」の中身は、「学ぼうとする力・学ぶ力・学んだ学力」の三つの力としてとらえ、「学ぶ力」=「学び方」を中核にして、三つの力が相互に関わりながら、子ども一人ひとりに力として身につけていく時に、学力は確かなものになると仮説した。 そこで「豊かに考え、かかわり、表現する子ども」とは、学習の中で次のような学びの姿が見られる時であるととらえられる。 1)夢中になって考えたり、活動し続けたりしている子ども(の姿がある学習) 2)自分の伸びを自覚し、次のめあてを決め出している子ども(の姿がある学習)</p>
--------	--

- 3)いっしょに活動できるよさを感じ、互いに教え合ったり、認め合ったりしている子ども(の姿がある学習)
- 4)学習への取り組み方や、自分の考えや活動の様子を書いたり、話したりしている子ども(の姿がある学習)
- このような姿がさかんにみられる学習をつくることが「確かな学力」となり、生きる力の育成につながると考える。

研究の内容・方法

- 1)教科学習をどのようにつくっていくとよいか。そのためには教材の開発や指導方法の工夫といったことが大切となる。さらに、学習に入る前段階として、学習を支えるための土台となる力、日常生活をおこなっていく上で必要となる力などを明らかにし、発達段階にそった力の獲得を図ることが大切になる。これらの力を活用して、実際の生活の中で発見したり、実際に体験する中で気づいたりした諸課題について、自分の課題として位置づけ、よりよく問題を解決していく力へとつなげていくことも大切になる。これらを3つの段階としてとらえ、それぞれの段階における力をどのようにつけていくとよいか、3つの段階の相互のかかわりも考えながら明らかにしていきたい。
- 2)「考え・かかわり・表現する」子どもの姿がさかんに見られる授業にせまるためには、一つ目として、子どもたちが夢中になって取り組める教材の開発をしていく必要があると考える。二つ目には、どの子どもが「できた・わかった」がある学習であり、そこからさらに「こんなことがしてみたい・やれそうだ」と乗り出していける学習をつくることである。その中には、自信がもてる場としての学習の振り返りを行う工夫や、見通しがもてるような学習過程の工夫があると考え。この中において、少人数学習を中核にして個に応じた指導法についても取り組んでいこうと考える。

平成  
15  
年度

テーマ

夢中になれる 見通しがもてる 自信がもてる 子どもを求めて  
研究の見通し

どの子どもが「おもしろそう、やってみたい」と乗り出せる学習をつくり出し、「わかった、できた」と自信がもてる子ども、「次はこんなことがやってみたい、やれそうだ」と見通しをもって取り組み続ける子どもの育成が、学ぶ力(考える力、表現する力、かかわる力)となり、「確かな学力」が育まれていくことになると仮説した。

研究の内容・方法

一人ひとりの子どもが

自ら夢中になって取り組める 教材の開発

自ら見通しをもって取り組める 学習過程の工夫

自ら自信をもって取り組める 学習をふり返る場の工夫

をしていくことが大切であると捉えた。教科の学習の中で研究・実践を図るとともに、生活場面や教科の力を総動員するような場面においても、この研究の内容・方法を取り入れていこうと考えた。

生活・学習・自立の3部会を構成し、その中で子どもの育ちを図っていく

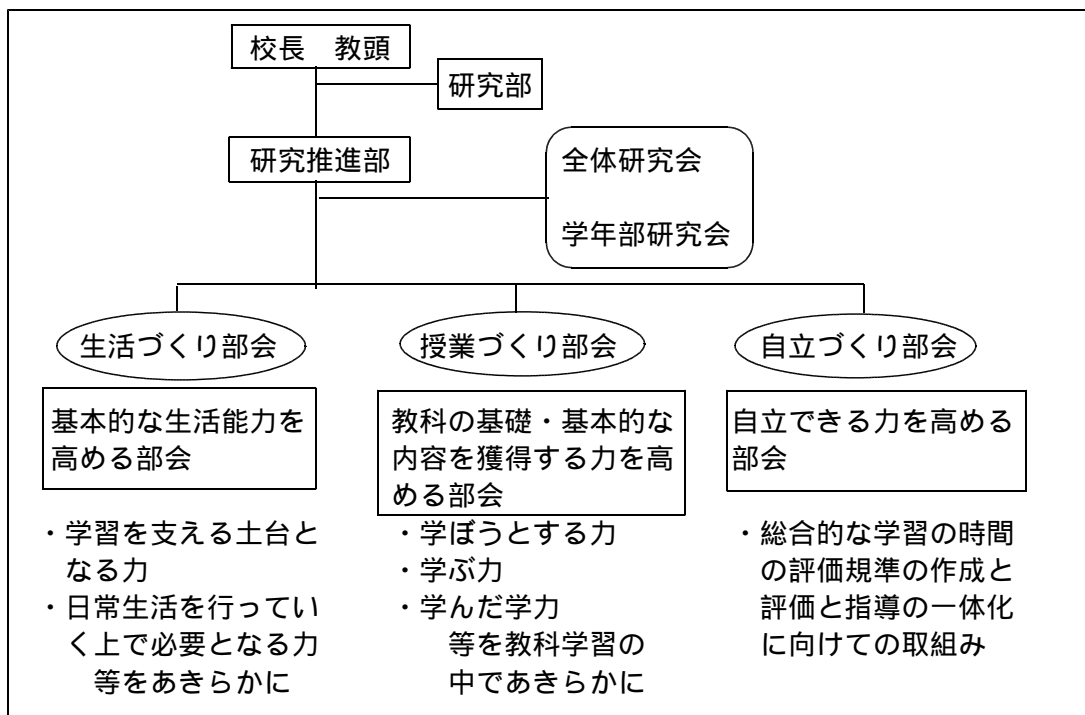
・生活づくり部会：朝の15分の帯タイムの運営・活用、家庭学習の開発等

・学習づくり部会：算数科では、子どもの考えが生きる活動、学びの積み上げ、少人数学習の位置づけ、活動の発展性等を考慮した年間計画の作成

	<p>国語科では、「読むこと」をねらいとした学習活動の積み上げ</p> <p>・自立づくり部会：保護者や外部人材とともに作る学習や体験活動発信する相手を意識した活動</p>
--	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>夢中になれる 見通しがもてる 自信がもてる 子どもを求めて 研究の見通し</p> <p>学ぼうとする力や学ぶ力、学んだ学力という三つの力が相互にかかり合いながら子どもの学びが育まれることによって、教科学習の基礎的・基本的内容の獲得とともに、獲得した力を総合的に活用したり、実践化したりする「生きる力」へと働くことになる</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>1)生活づくり：平成15年度の活動を継続</p> <p>2)学習づくり：発展や補充など個に応じた学びをつくる学習の開発 個の学びの連続性に働く評価や指導のあり方 少人数学習を核にした、指導方法の工夫</p> <p>3)自立づくり：「いつさとタイム」(総合的な学習の時間)の取組み 生活づくり・学習づくりの中でついてきた力を自立づくりの中で生かせる活動の開発</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

1) 個に応じた指導のための指導方法の工夫改善に向けての取組み

研究の1年目は、一人ひとりの子どもが自ら夢中になって取り組む姿が見られる教材の開発を中心に取り組みを行ってきた。研究2年目の本年度は、一人ひとりの子どもが自ら見通しをもって取り組む姿を追い求めてきた。教科学習や様々な体験活動の中で、子どもたちが「見通し」をもてる場面があることが見つかった。

- ・ 日常生活と結びつけるような問題提示をした時
- ・ 問題場面の把握を一つ一つていねいに確認した時
- ・ 求答事項を伏せて、場面のみを提示した時
- ・ 「ここまで、わかる・できる」の実感をもたせられた時
- ・ 自分の「思い・考え」を表現させることができた時
- ・ 「     さんの考えはどんなものかな」と、他の人の考えを自分のものにしてきた時

「自ら学び自ら考え、よりよく問題を解決する」には、問題解決の過程の中で次の三つの場面における「見通し」があり、上述のような手立てを考えていくことが大切であるとわかってきた。

- 「課題の確認・提示」の場面
- 「自分で考え、解決にいたる」場面
- 「学び合い」の場面

## 2) 個に応じた指導のための少人数学習の工夫に向けての取り組み

学級を単位として2グループにわかれる少人数学習を基本にしながら、どのような2グループにしていくとよいのか。グループに分かれる前の時間としての全体での指導をどのように行うとよいのか。いつどのような段階で分かれるのが効果的なのか、といったことが昨年度の研究を通して見つかった課題であった。

本校においては、学習の導入段階では少人数のグループに分かれないで、まず学級一斉の時間をとり、単元の学習を全員で見通す場面が必要であると考え取り入れてきた。学級一斉の時間は、単元の途中においても必要であれば取り入れるという考え方で、指導者同士が情報を交換しながら柔軟な姿勢で指導を行うことが大切であった。

習熟度別のグループ編成については、「じっくりコース」「どんどんコース」を編成し、学習の進め方に違いがあることを子どもや保護者に説明した。どちらのコースを選択するかは、まず子どもたちに考えさせ、また保護者の方とも相談したり、教師側の声かけも行ったりしながら、子どもたち自身で選択していけるようにしていった。学級の枠をこえ学年でコースを設定する時には「基本コース」「発展コース」を設定していった。

## 3) 学力調査結果を基に個に応じた指導の工夫に向けての取り組み

昨年度末、算数について学力調査を全学年で取り組んだ。4、5、6年生については、県の教育センターや小教研算数部会で作成されたリサーチやテストを活用することで県との比較を行った。また、1、2、3年生については、自校で作成した学年末テストを実施した。

本年度は、10月段階で、昨年度実施したテストと同一問題をもう一度行うことで、子どもたちの定着度を探りながら、指導方法を改善していく手がかりを探ることにした。正答率の比較は次の通りである。

3年生10月時における2年生学年末との比較(一部) ( % )

問題	146 - 89	7 × 8	9 × 6	10000 より 1 小さい数	テープの長さは
15.03	70	100	99	93	69
15.10	88	97	97	78	79

4年生10月時における3年生学年末との比較(一部) ( % )

問題	24000 は 1000 を 何個集めた数か	500 を 10 で わった数	793 - 365	58 ÷ 8	34 × 2	318 × 4 筆算で
15.03	7 1	9 8	9 1	8 6	7 5	8 6
15.10	8 1	8 8	9 5	8 3	8 1	6 8

5年生の本校(H15)と県(H14)の比較【H14版基礎学力定着リサーチ】 ( % )

問題	2.8 + 1.3	2.3 × 5	9.1 ÷ 7	2 と 1/5 大きさは	条件過多の 中から立式	折れ線グラフの傾き の特徴を読み取る
県	9 2	9 0	8 9	8 5	7 5	6 1
本校	8 8	9 3	9 5	8 0	6 5	7 0

前年度までに学習したことが基礎・基本となって次の学年の新しい単元の学習がスタートしていく。しっかりとした定着を図ることが大切であり、子どもたちの準備状況を調査することは大切な作業となる。ただし、内容の学年配列の関係で1年以上あいてしまう学習もあり、学習に入る前に行う取組みだけでなく、常時子どもたちが前年度内容も含めて今まで習ったことを振り返る場が必要となる。本校においては、朝の帯の時間(すくすくタイム)の活用とともに、1週間に1回昼休みを使って「すいすい教室」を開設し希望する子どもたちに対応したり、家庭学習の工夫や長期休暇中の課題づくりをしたりして、個に応じた指導を行ってきた。

さらに、一人ひとりの成長の過程を保護者の方にも知らせ、課題となる点を個別懇談会や日頃の家庭訪問を通して共通理解を図りながら、家庭における協力体制をお願いしてきた。

2. 今後の課題

- 1) 一人ひとりの子どもが自ら考え、課題を解決する力をつけていくことが「確かな学力」につながると考えて実践を行ってきた。1年目においては、子ども自らが夢中になって取り組むような教材の開発に主眼をおくことからスタートし、本年度は、自らが見通しをもって取り組む姿を追い求めてきた。この中で、活動が活動するだけで終わったり、一つの「できた・わかった」で終わってしまつて次へとつながらなかつたりするのは、「確かな学力」とはいえないだろう。そこには、学習をふり返る場が大切になると考える。自己評価や相互評価など評価活動にポイントを絞って取り入れ、子ども自身が「自信をもてる」学びにできる手立てを明らかにしていくことが大切であると考えている。
- 2) 少人数学習について、様々な取組みを行ってきた。習熟度別のグループ編成について、高学年ではいろいろな領域において実践ができるようになってきた。このことを低学年の学習でどのように取り組むとよいのか。学び方としてのコース選択を行ってきたのであるが、子どもの育ちとかかわってどのように設定をしていくとよいのかも考えていかなければならない課題になるだろう。
- 3) 本校の子どもの実態について、学力調査や学習への意識調査等を行う中でより明らかにしていくことが大切になると考えている。そこから、子どもたちの今もっている力を更に伸ばしていきたり、課題となる点を補つたりと、個に応じた指導が図られるものと考えている。このことは、教科学習だけで担うのではなく、日々の生活場面であるとか、総合的な学習の時間を含めた教育課程の中で工夫をしていくことが大切になると考えている。

## 学力等把握のための学校としての取組み

- \* 児童の学習状況の変容をとらえるために、定期的に行っている各種調査などについて、調査の目的、実施内容、時期等を記すこと。
- 1) 算数科の学習内容の定着を調査することを目的として、全学年で次のような調査を年度末に実施している。
    - 1～3年生 「まとめの問題」(本校で作成)
    - 4～6年生 「県算数学力診断テスト」(小教研算数部会作成)  
県レベルでの診断テストを活用することで自校の実態を客観的に見ることができると考える
  - 2) 前年度の学習内容がどのくらい定着しているのか、繰り返し学習していく中で一人ひとりの子どもの伸びはどうであるのかを調査する目的で、年度途中の10月に前年度末に行ったテストを再度実施している。
    - 2～4年生 「まとめの問題」
  - 3) 県レベルの調査結果との比較を通して本校の子どもの実態を探ることを目的として、高学年を対象に10月に調査を行い、下半期の学習に生かしていく。
    - 5, 6年生 「基礎学力定着リサーチ」(県総合教育センター作成)

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 学力向上フロンティア事業 第3地区協議会において報告
  - ・1年次から2年次に向けての研究計画の説明
  - ・1年次を終えての成果と課題についての説明
- 2 中学校区研究会で本校の取組みと成果や課題について説明
  - ・「確かな学力や学習する力をもった子どもの育成」部会において、学習に向かう子どもの意識調査(アンケート)や学力調査結果について報告
- 3 学校訪問における学力向上フロンティアスクールとしての取組み説明
  - ・亀岡市小学校教育研究会 23名 6/30(月)  
学習公開 5年生 算数 「垂直と平行・四角形」  
授業説明、研究の概要等
  - ・丸亀市城辰小学校 研究主任1名 8/21(木)  
研究の概要、少人数学習の取組み、学力調査、学習環境等について説明

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |                                     |                                     |                               |                             |
|----------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|-----------------------------|
| 【新規校・継続校】            | <input type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 |                               |                             |
| 【学校規模】               | <input type="checkbox"/> 6学級以下      | <input type="checkbox"/> 7～12学級     |                               |                             |
|                      | <input type="checkbox"/> 13～18学級    | <input type="checkbox"/> 19～24学級    |                               |                             |
|                      | <input type="checkbox"/> 25学級以上     |                                     |                               |                             |
| 【指導体制】               | <input type="checkbox"/> 少人数指導      | <input type="checkbox"/> TTによる指導    |                               |                             |
|                      | <input type="checkbox"/> 一部教科担任制    | <input type="checkbox"/> その他        |                               |                             |
| 【研究教科】               | <input type="checkbox"/> 国語         | <input type="checkbox"/> 社会         | <input type="checkbox"/> 算数   | <input type="checkbox"/> 理科 |
|                      | <input type="checkbox"/> 生活         | <input type="checkbox"/> 音楽         | <input type="checkbox"/> 図画工作 | <input type="checkbox"/> 家庭 |
|                      | <input type="checkbox"/> 体育         | <input type="checkbox"/> その他        |                               |                             |
|                      |                                     |                                     |                               |                             |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input type="checkbox"/> 有          | <input type="checkbox"/> 無          |                               |                             |